

## コミュニティ福祉学部教育課程編成の方針

### 教育課程の編成と特色

#### コミュニティ政策学科

コミュニティ政策学科の教育課程においては、学士課程における修業年限4年間で「導入期」「形成期」「完成期」の3期に区分し編成している。各期のねらいは以下のとおりである。

導入期は、次の7項目を主たるねらいとする。

1. 大学における自己判断・主体的な学び、自身での目標設定、そしてキャリア形成の重要性などを理解する。
2. 立教大学コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科への帰属意識をもつと同時に、立教大学、コミュニティ福祉学部、コミュニティ政策学科の学生であることに誇りを感じ、学生としてあるべきマナーを身につける。
3. スタディ・スキルを身につける。学生として必要となるノートの取り方、文献検索の方法、レポートやレジュメの書き方を身につけると同時に、学問上の倫理について知る。
4. コミュニティ政策学に関わる基礎的な知識、方法論、技法を身につける。
5. 社会の動向に関心をもち、広い視野を身につけることの重要性を理解する。ボランティア、非営利活動に対して関心をもつ。
6. 4年間の学生生活を全体的に見る視野をもち、目標を立て、それを段階的に実現してゆくことの重要性を知る。さらに卒業後の進路・方針にも視野を広げる。
7. 「英語の立教」という語句の意味することを理解し、自身の実践的な課題を設定する。  
なお、NEXUS プログラムでは、標準 0.5 年間〔1学期間〕の日本語集中履修期間に加え、言語 A および言語 B における日本語、ならびに平易な日本語を用いて実施する「学びの精神」の履修を通して、学ぶための姿勢と基礎的な知識・技法を身につける。

形成期は、以下の7項目を主たるねらいとする。

1. コミュニティ政策学への理解を深め、専門的な知識と技法を身につけ、向上をはかる。
2. コミュニティ政策学を学びながら、それらの知識と技法を実社会のなかにどう関わらせるか、常に意識する。
3. コミュニティ政策学の観点から様々な社会問題について調査研究し、その結果を発表し議論できるようになる。
4. 留学等を通して、異文化に対する関心や理解をもつ。
5. 留学や国内での英語活動への参加等、自らの英語力を向上させる機会を見出す。
6. コミュニティ政策の理念への理解を深め、2つの専修を構成する「コミュニティ学」「政策学」に関する幅広い教養を身につけることを通じて、各自の専門的な問題関心を深める。

7. 卒業後のキャリア・生き方の方針について検討し、必要に応じて再検討する。

完成期は、以下の7項目を主たるねらいとする。

1. コミュニティ政策学に関して、これまでに学修した知識や技法を総合的に応用し、活用できる。
2. 応用・活用の一例として、各自の専門的な問題関心を探究し、一定水準の卒業論文や演習論文を仕上げるだけの能力を身につける。
3. 専門外の人に、コミュニティ政策学とは何か、その中で自分が何を学修し、獲得したかを説明できるようになる。
4. 専門領域が異なっても、特定の社会問題について建設的に討論できる。
5. インターンシップやボランティア活動等を通して、人生において働くことの意義について体得する。
6. 卒業後の進路を確定し、人生全体の目標を確認する。
7. 国際的な感覚や視野の広がりを涵養し、グローバル化する世界に対応しうる力をつける。

#### 福祉学科

福祉学科の教育課程は、学士課程における修業年限4年間を「導入期」「形成期」「完成期」の3期に区分し編成している。各期のねらいは以下のとおりである。

導入期は、次の8項目を主たるねらいとする。

1. 大学における学びの意義を理解し、**自己判断による主体的な学修態度を形成するとともに、キャリア形成の重要性を認識する。**
2. 立教大学コミュニティ福祉学部福祉学科への帰属意識を持つと同時に、福祉学科の学生としてのアイデンティティを形成し、学生としてあるべき姿勢を身につける。
3. スタディ・スキルを身につける。文献の読み方、レポート・論文の書き方・プレゼンテーションの方法などの基礎的能力と適切な ICT ツールの使い方を身につけると同時に、学問上の倫理について知る。
4. 社会福祉学に関わる基礎的な知識、方法論、技法を身につける。
5. 社会の動向に関心を持ち、広い視野を身につけることの重要性を理解する。社会福祉実践、ボランティア活動に対して関心をもつ。
6. 4年間の学びと学生生活全体を俯瞰し、目標を立て、それを段階的に実現してゆくことの重要性を知り、**計画的に行動する力を養う。**
7. 人と社会の在り方に関心を持ち、学科が設定する専門領域について考えると共に、自身の興味関心を育てる。
8. 「英語の立教」という語句の意味することを理解し、自身の実践的な課題を設定する。  
なお、NEXUS プログラムでは、標準 0.5 年間〔1学期間〕の日本語集中履修期間に加え、言語 A および言語 B における日本語、ならびに平易な日本語を用いて実施する「学びの精

神」の履修を通して、学ぶための姿勢と基礎的な知識・技法を身につける。

形成期は、以下の6項目を主たるねらいとする。

1. 社会福祉学に関する知識を修得して専門性を高め、社会との関係を広げ、他者への関心と理解を深める。
2. 社会福祉学を学びながら、自身と社会問題の繋がりを考え、**社会福祉の視点からキャリア形成について自覚を深める。**
3. 社会福祉学の観点から様々な社会問題について調査研究し、その結果を発表し議論できるようになる。
4. 実習教育やキャリア形成に関する教育を通して専門領域における学びを深化させると共に、卒業後のキャリアを考える。
5. 多様な社会福祉の対象について関心を持ち、広い視野を持って人と社会を考える。
6. 異文化体験や留学を通し、多様な価値観と生活様式を理解しつつ、**社会的排除や包摂に関する国際的視野を育む。**

完成期は、以下の7項目を主たるねらいとする。

1. 社会福祉学に関して、これまでに学修した知識や技法を**総合的に応用し、実践的課題の解決に活用できる。**
2. 応用・活用の一つとして、一定水準の卒業論文または卒業制作を完成させる。
3. 「私たちの世界、社会、隣人のために」(Pro Patria) 働くことのできる「専門性に立つ教養人」となる。
4. 専門領域を越えて社会課題について建設的に討議し、協働的に課題解決に取り組む姿勢を養う。
5. ボランティア活動やインターンシップ等を通して、人と社会の関係を体験的に理解し、実践力を高める。
6. 卒業後の進路を確定し、人生の目標を主体的に設定する。
7. 国際的な感覚や視野の広がりを涵養し、グローバル化する世界に対応しうる力を身に付ける。